



[teeta]



「テエタ」

「テエタ」はアイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



重要文化財 動物形土製品（千歳市美々4遺跡出土 縄文時代後期 千歳市教育委員会蔵）

○平成21年度の発掘調査概要	2
○平成21年度の調査	3
○財団センターの設立30周年をむかえて	4
○財団センター発足の頃 1980年5月	6
○平成22年度の発掘調査予定	8

○平成21年度の発掘調査概要

今年度は道内10市町村に所在する14遺跡で発掘調査を実施しました。以下、調査の成果を時代、時期順に略述します。
旧石器時代：北見市北上4遺跡では、遺物集中範囲が6ヵ所検出されました。これらは細石刃石器群に含まれますが、ホロカ型細石刃核を伴うもの、尖頭器・小型舟底形石器を伴うもの、大形の石刃が含まれるものなど各種の石器群があります。千歳市キウス5遺跡で検出された細石刃石器群は、平成19年度調査範囲からの分布の続きで、忍路字型細石刃核を伴うものです。下川町北町J遺跡では、頁岩素材の細石刃核が出土しています。

縄文早期：木古内町蛇内2遺跡では早期後半の堅穴住居跡が検出され、中茶路式土器、東釧路Ⅳ式土器が出土しています。木古内町大平4遺跡では土坑が検出され、中茶路式土器が出土しています。鶴居村下幌呂1遺跡の土坑は、小型のものが多くあり、フラスコ状土坑なども検出されています。土坑のなかから中茶路式土器が出土しました。

縄文前期：苫小牧市美沢16遺跡では堅穴住居跡、土坑が検出されました。堅穴住居跡は、調査区域の縁部分に位置し、静内中野式土器が出土しています。蛇内2遺跡の土坑には、桔梗野式土器が出土したものの、覆土中から春日町式土器の底部が出土したのがあります。フラスコ状土坑からは、円筒土器下層d式土器が出土しています。北斗市館野6遺跡では前期後半、円筒土器下層c式、円筒土器下層d式の堅穴住居跡、盛土遺構が重複して検出されています。これらのなかには石組炉をもつ堅穴住居跡もあります。土坑、焼土、集石などの遺構は、「遺構の切りあい関係」から詳細な時期の確定ができる可能性があります。木古内町大平遺跡では、円筒土器下層c式、円筒土器下層d式の堅穴住居跡、土坑、埋設土器、剥片集中などの遺構が検出されています。土坑のひとつは、フラスコ状土坑と呼ばれるものです。大平4遺跡では、円筒土器下層式の土坑、集石、焼土、剥片集中などが検出されています。根室市トーサムボロ湖周辺堅穴群では堅穴住居跡、土坑、剥片集中などが検出されました。堅穴住居跡は、長径8m以上の大型のもの、直径5m前後のものに分けられそうです。押型文尖底土器が埋設された状態で出土した住居跡もあります。福島町館崎遺跡では、前期後半～中期前半、および後期前葉の時期に形成された盛土遺構を調査しました。前期後半～中期前半の遺構には、堅穴住居跡、土坑、土坑墓、焼土、集石などがあります。人骨が検出された土坑墓のうち大型のものには8体分の頭蓋骨があり、他の二つはともに1体分の屈葬です。盛土遺構から出土した土器は、その場でつぶれた状態のものが多数あります。これらの土器型式は、円筒土器下層d式、円筒土器上層a式、円筒土器上層b式です。滑石製の球状耳飾も出土しています。円筒土器の時期に特徴的な扁平打製石器、北海道式石冠が多く出土しています。石鏃は頁岩製のものが多く、その基部にはアスファルト付着が顕著です。

縄文中期：北町J遺跡では珪化岩の礫・石核・剥片・破片が出土しており、ここが剥片剥離および石器製作の場であったことを推測できます。千歳市キウス5遺跡では、天神山式・柏木川式の堅穴住居跡、土坑、焼土などが多数検出されています。杭穴は、列を成して検出されているものがあり、なかには堅穴住居跡・土坑を取り巻くような弧状の配置を読み取れるものがあります。蛇内2遺跡の堅穴住居跡には、掘り込みのある石組炉があり、ノダツブⅡ式土器・最花式土器が出土しています。下幌呂1遺跡では、北筒Ⅱ式～北筒Ⅲ式の堅穴住居跡が検出され、平面形は楕円形を基本としますが、不整部分が目に付きます。さらに堅穴の掘り込みは深淺さまざまで、床面も明瞭な平坦面をほとんど検出できませんでした。これらの遺構には、屋根の葺き土と推定される黄色土が残存するものがあります。さらに周壁の検出が困難で「平地住居跡」とみなしたのから、床面から炭化材が多量に検出されました。これは、やや細い垂木と横木の組み合わせが読みとれます。

縄文後期：富良野市学田三区3遺跡では、タブコブ式土器が出土しており、石組炉、剥片集中などは、この土器の時期であろうと推測されます。館崎遺跡の盛土遺構は、後期前葉にも形成されており、堅穴住居跡、焼土、配石列などの遺構も検出され、鐸型土製品も出土しています。蛇内2遺跡では、後期前葉と推定される堅穴住居跡が検出され、堅穴の内側に入り口施設に関連する溝状の掘り込み2条が平行してみられます。前葉のフラスコ状土坑もあり、底面・覆土から浦元2式土器・トリサキ式土器が出土しています。矢不來11遺跡では、赤彩土器が出土しています。下幌呂1遺跡では、鯨潤式の大型堅穴住居跡が検出されました。出入口の施設、支柱穴、周壁の支柱穴などが確認され、「四脚付浅鉢」の完形品・黒漆塗りの櫛・深鉢形土器などが出土しています。

縄文晩期：大平4遺跡では大洞C₂式の土坑がみつかっています。蛇内2遺跡では大洞C₂式土器が、下幌呂1遺跡では、緑ヶ岡式土器が出土しています。

続縄文時代：顕著な資料はありませんでした。

擦文文化期：キウス5遺跡では堅穴住居跡が検出されており、そのうちのひとつは平成19年度からの継続調査です。

委託者	事業名	遺跡所在地	遺跡名	調査面積(m ²)			
				実施			
国土交通省 北海道開発建設局	札幌開発建設部	一般国道337号新千歳空港関連工事	千歳市	キウス5	3,068		
			苫小牧市	梅川41ほか	整理作業		
	函館開発建設部	函館江差自動車道函館茂辺地道路工事	北斗市	美沢16	1,360		
				館野6	5,763		
				矢不來11	1,349		
				矢不來81ほか	整理作業		
	旭川開発建設部	天塩川サンルダム建設工事	下川町	北町J	1,200		
				サンル4線	整理作業		
	室蘭開発建設部	一般国道36号登別拡幅工事	富良野市	学田三区2	900		
				学田三区3	1,360		
網走開発建設部	北海道横断自動車道釧路子府北見間改良工事	北見市	虎杖浜2 ホンアヨロ4	整理作業			
			北見市	北上4	5,092		
(国土交通省計)	一般国道450号白滝丸瀬布改良工事	遠軽町	旧白滝1ほか	整理作業			
東日本高速道路株式会社	北海道縦貫自動車道七飯長万部線	森町	石倉1	20,092			
鉄道運輸機構	鉄道建設本部 北海道新幹線建設局	北海道新幹線建設	福島町	館崎	整理作業		
			木古内町	大平	839		
				大平4	411		
				大平4	1,172		
				蛇内2	10,430		
(鉄道運輸機構計)				12,852			
北海道	石狩支庁(札幌土木現業所) 釧路支庁(釧路土木現業所)	釧路町	柏木川基幹河川改修工事	恵庭市	西島松2ほか	整理作業	
			釧路鶴居弟子屈線交安1種(統合)工事	鶴居村	下幌呂1	1,590	
			根室半島線交付金B事業	根室市	トーサムボロ湖周辺堅穴群	400	
			(北海道計)				1,990
			釧路町	町道床丹5号線道路改良工事	釧路町	天寧1	整理作業
合計					34,934		

○平成21年度の調査

とまこまい みさわ
苦小牧市美沢16遺跡

遺跡は、苦小牧市街から北東へ約15kmの千歳市に接する美沢地区、新千歳空港B滑走路端の南側に位置します。新千歳空港用地内には、数多くの遺跡があり、1976（昭和51）年から約300,000㎡が発掘調査され、これらは美沢川流域の遺跡群、フレベツ遺跡群、ペンケナイ川流域の遺跡群と呼ばれています。本遺跡はフレベツ遺跡群に属し、1995年（平成7）年度に調査が行われ、縄文時代の竪穴住居跡や土坑が確認されました。今年度の調査はその西側の斜面で、竪穴住居跡2軒、土坑3基がみつかっています。

遺物は、縄文時代前期の静内中野式・春日町式土器、及び石鏃・つまみ付きナイフ・磨製石斧・たたき石・砥石・石錘などがあります。



調査状況

しもかわ きたまち
下川町北町J遺跡

遺跡は、下川町の市街地から北北東へ約4km、無名沢川とサンル川との合流する標高約160mの丘陵斜面の縁辺部に立地しています。調査区内は南東から北西側に緩く傾斜する山地の斜面堆積でできています。今回の調査では、珪化岩を主体とする石器や剥片の集中域が確認されました。

遺物は、石器等が2,095点、土器片14点、計2,109点出土しました。土器片は風化が進んで摩滅しているものが多いですが、この中には鋸歯状の押型文が施されたものが含まれています。石器は大半が剥片で、次いでスクレイパー、二次加工痕のある剥片、石核も出土しています。石材は珪化岩が約9割を占めています。また、剥片の集中域も6カ所で確認されました。このうち100点を越える集中域が4カ所ありました。



調査状況

きたみ きたかみ
北見市北上4遺跡

遺跡は、北見市街の南西約6km、常呂川と訓子府川に挟まれた標高約90～95mの台地南側に位置し、旧石器時代の遺構、遺物が検出されています。

遺構は、焼土3カ所、礫集中1カ所、炭化物集中4カ所、遺物集中ブロック（Bl.）6カ所が検出され、遺物は6,200点出土しました。Bl. 1はホロカ型細石刃核・彫器・削器・搔器と多量の細石刃等が出土しています。Bl. 3とBl. 5は峠下型細石刃核などが出土しています。Bl. 1とBl. 3、Bl. 5はそれぞれ黒曜石の石器が接合し、石器組成も類似しています。Bl. 2は尖頭器・小型舟底形石器・石核等が出土し、Bl. 6の石器と接合しています。Bl. 6は峠下型細石刃核・削器・搔器と少量の細石刃等が出土しています。

Bl. 4は大形の石刃・削器・搔器等が出土しています。



調査状況

ねむろ
根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群

遺跡は、根室半島突端の納沙布岬から西に5km程のオホーツク海に面するトーサムポロ湖東岸の標高約14m～19mの段丘上に位置し、縄文時代前期の竪穴住居跡9軒、土坑6基などが検出されました。竪穴住居跡は平面形が楕円形や隅丸方形・多角形で、長径8mを超えるものと直径4～6m程のものがあります。

遺物は、土器約1,200点、石器約5,900点で、土器は縄文時代前期の「押型文尖底土器」と呼ばれるものがほとんどです。土器は厚みがあり、粘土中には植物の茎などがたくさん含まれていたようです。土器の形は底が尖っており、彫刻された丸棒などを押し転がしてつけられた「矢羽根」状の文様がみられます。



押型文尖底土器出土状況

○財団センターの設立30周年をむかえて

財団法人 北海道埋蔵文化財センターは、昭和54年9月1日に設立されたので昨年の秋で30周年を迎えたことになる。十年一昔と言われるが、財団センターが発足したのはすでに三つも昔のことである。人に例えるならば、30才はそろそろ壮年期の立派な社会人であるが、果たして財団センターはそのような社会的評価をうけているだろうか。ところが近頃の社会情勢は、財団センターの今後を見通せる状況ではないが、そのようなときだからこそ今一度財団が発足したときの状況を



昭和51年度 苫小牧市美沢1遺跡 住居跡調査状況

眺めなおしてみることも意味のあることだろう。

眺めなおしてみることも意味のあることだろう。

昭和40年代半ばに、道内でも原因者が費用負担した埋蔵文化財の緊急発掘調査が増加し始めるが、道や市町村の教育委員会にはまだ専門職員がほとんど配置されていなかった。そこで昭和46年に道教委は、当時高校教員をしていた藤本英夫先生を文化財保護の専門職員として迎え入れた。その後、道教委の文化財専門職員は徐々にその数を増やし、体制の整備を進めていた。昭和49年の夏に私を含め6名の専門職員が増員されたが、その時藤本先生は「緊急発掘調査をさせるために採用したのではない。」と話された。当時、藤本先生つまり道教委は、緊急発掘調査は市町村が対応し、道教委は道内遺跡の分布調査やチャシ跡など緊急に保存措置を講じなければならない重要な遺跡の調査に対応するという役割分担を考えていたのだった。しかし、現実には道教委が目指した方向とは異なる方向へ進んでいた

のである。

新職員を採用して2週間後には藤本先生の目論見は見事に打ち破られ、釧路町^{とおや}遠矢第2チャシ跡の道路工事に伴う緊急発掘調査に道教委は乗り出さざるをえなくなるのである。道教委は専門職員を増員できても、市町村では専門職員の配置はなかなか進まず、それらを追い越す勢いで北海道にも開発事業の大波は押し寄せていたのである。昭和51年には、北海道縦貫自動車道、新千歳空港などの緊急発掘調査に、道教委は本格的に参入せざるをえなくなったのである。この時、「道教委は、広域で大規模な緊急発掘調査に対応し、その他は市町村教委が対応する」という役割分担が示されたと記憶している。1970年代まったただ中のことであった。



昭和55年度 千歳市美々5遺跡火山灰除去作業

ところが、道教委が直営で緊急発掘調査を行うには、いくつかの課題があった。ひとつは年々増加する一方の事業量に対応するための職員の定数確保であり、もうひとつは予算の議決を待っていたのでは現場の調査希望時期に間に合わないことがあった。このような不便を解消し、迅速で柔軟な対応をするために北海道が基本財産を出資して財団センターを設立したのである。つまり、財団センターは典型的な行政補完型財団なのである。

その後、財団センターは、開発事業者の要望に応える一方で、平成11年からは道から委託あるいは指定を受けて北海道立埋蔵文化財センターの管理運営も行っている。出土文化財や記録類の保管、普及活用事業など、財団としては幅広い分野における取り組みをはじめた。ただし、この仕事は財団の事業量の10%以下を占めるにすぎず、依然として主要な業務は緊急発掘調査が占めているのである。



昭和55年度 千歳市美々4遺跡 周溝墓調査状況

近年は未曾有の大不況、財政危機、公共事業の大幅削減などの中、緊急発掘調査に一般競争入札を導入する動きもあり、財団センターにとっては強烈的な暴風が吹き荒れているとあって過言ではない。30年前とはまるで違う社会情勢である。しかし、世の中から開発事業が完全に消滅する訳ではあるまい。そうであれば、財団センターが担ってきた大規模調査の対応からは少し外れるが、小規模な事業についてもお手伝いさせていただく場面が増えそうである。今後の財団センターは専門調査機関としての特性を生かし、量よりも質の高い埋蔵文化財調査へ転換

を図りながら、北海道の基層文化について広く情報発信し、多くの人びとのご理解とご信頼を得ることが大切である。

全道の皆様のご理解とご協力を財団センターに賜りますようお願い申し上げます。

(常務理事 畑宏明)



昭和58年度 今金町美利河1遺跡出土品(重文)



昭和59年度 平取町ポロモイチャシ跡



昭和62年度 小樽市忍路土場遺跡 木製品の発掘



平成4年度 函館市中野B遺跡 竪穴住居跡



平成4年度 千歳市美々8遺跡 低湿地の発掘



昭和61年度 千歳市ママチ遺跡 土面(重文)



平成10年度 千歳市キウス4遺跡 周堤墓



平成21年度 小学生の体験学習

○財団センター発足の頃 1980年5月

1980年の5月から10月まで、私は登別市内での遺跡調査に携わっていた。4名の調査員で登別市、白老町^{しらおい}の6カ所の遺跡調査を行う一員なのであった。

5月の連休明けに札幌を出発し、調査事務所を設営し、発掘に着手する日程は、現在と同じである。登別の場合は、調査員2名（中村、西田）が担当し、川上B遺跡^{かわかみ}に調査事務所を置き、富岸遺跡^{とんげし}、千歳4遺跡^{ちとせ}へは、作業員の休息用の TENT を張り、遺物整理は、調査事務所で行う体制である。白老町の場合も、調査員2名（種市、青柳）、調査事務所は虎杖浜3遺跡^{こうじょうはま}で、社台1遺跡^{しゃたい}、虎杖浜4遺跡へ出かけるのである。

発掘の作業員は登別、白老ともに30名ほどを地元で雇用するのも現在と同じである。調査の体制で、現在と大きく異なるのは、調査補助員という職種をもうけ写真撮影、測量などの作業を分担していたことであろう。調査補助員の制度がなくなるのは、1983年のことである。また、登別・白老地区の出張形態は、当時の交通事情からして2週間の輪番制であった。国鉄の急行列車の停車駅は、登別駅しかないので、月曜日の朝札幌駅を出発すると、昼前に登別駅に着き、調査事務所までは、登別、白老の調査事務所からそれぞれ連絡車が迎えに来ていたのである。現地での作業を終了し札幌に帰るのは、次の週の金曜日になる。

前年秋に発足した財団は、1980年春からは、三カ所で発掘を行うことになっていた。調査部職員は、調査部長1名を除いて14名であり、千歳市の新千歳空港、江別市内の高速道路、登別・白老での高速道路の遺跡調査にあたることになっていた。前年は新千歳空港と江別市内の高速道路に関わる遺跡であったが、それまでに調査を継続していた新千歳空港を大きく離れる地域での発掘が始まるのである。



昭和55年度 白老町社台1遺跡調査状況



昭和55年度 登別市川上B遺跡調査状況

石器等の分類	
現準ハンドブック	
昭和56年度	
1 石器等の大別	(3)
2 石器の分類	(4)
3 石器の計測	(17)
4 石器の組み合わせ別	(23)
5 付録	(55)
a 先土器時代の石器群	
b 縄文時代の石器群	
c 遺物の分布図例	(64)
d 分類にあたっての問題点とランフ区分	(81)
(財) 北海道埋蔵文化財センター	

まえがき

遺跡における遺物のあり方は、通常大小のヨリヨリをもっている。そのヨリヨリは、1年ごとにくりひろけられた季節的な作業や生活の場の跡いぼであるかもしれないし、数年あるいは数十年にわたる長期的な祭祀の場や墓地、定住的集落址址址であるかもしれない。

そのようなヨリヨリがいくつも重なりあったり、散在していているのが普通の遺跡における遺物のあり方である。私達にとってその遺跡の発掘を科学的に求めてゆくには、これらのしほは複雑にからみあっている遺物のヨリヨリを識別し、それぞれの新旧関係に基づき、順序よく調査を進めてゆくことが私達の責務である。

そこで、便宜的に従来調査されてきた、さぞ多量の遺跡の資料を母本として、並べ、遺物の新旧、組合せを判別する目安とすること、それによって作成されてきた従来の分類基準を、新資料に照らして修正していくことが是非とも必要なことであり、そのために分類基準「ハンドブック『土器』と『石器等』」を作成する。なお、随時増補改訂を行うものとする。

調査遺跡の確定にしたがって、準備の会合がもたれ、3月には、私たち調査部職員の作業内容の内部検討が行われた。これは、埋蔵文化財の発掘調査というきわめて専門性を有する職務についての、当事者ならでの判断・創意工夫を求められるところである。当然、前年夏季の発掘作業の精査を含むものとなり、計画的な発掘調査、整理時間確保の観点などの目標に対しての日々の実務処理をどのように行うのかの指針の明確化であった。

そのような議論の中で、発掘作業の手順が決まっていた。広い範囲を対象とする作業では、現在も実行している25%調査を行い、これによる遺物の多寡・濃淡、遺構のありかたなどをみきわめ、調査計画を再検討することが了解事項となった。さらに報告書作成に向けての冬の整理作業計画策定にあたっては、遺構、遺物の概要把握、遺物総点数の把握が必須であることが強調された。

私が言うまでもなく遺跡の調査では、土器、石器等の遺物が出土する。これらの遺物の実態を理解すること無しには、発掘は進み得ない。調査遺跡は土器、石器等の分類を行うことによって、客観的な理解が深まる。ところが、発掘では連日展開している作業場面では何が出土しているのか、どのような遺構なのかという理解は、これまた難しいところがある。当時の学問的な水準からみても、登別・白老地区では千歳地域とは異なる特色の出土物が十分に予想できていた。

経験のない地域での発掘調査への対処法が検討される中、遺物の分類を示す「ハンドブック」の必要性が提案された。圧倒的多数の縄文時代の遺物、土器、石器等の特色把握が安定的になされると、作業進行も安心だというのである。たしかに調査員として日の浅い者が縄文時代の土器、石器等に通じているわけではないのだから。発掘を行っている遺跡の時期の確定、特色が理解できれば、掘り尽してしまう調査に携わっても、いくぶんの安らぎを得るというのである。それに、調査部職員が全員同じ「ハンドブック」を持参していると、お互いの電話での問い合わせであっても、具体的で話が早くなるであろうというのである。なるほど妙案である。

そのような経過ののち、ハンドブック『土器』『石器等』が作成されるのであった。この作成実務の中心は、大沼忠春さんに担っていただいた。まず調査員の力量、現地での作業効率、整理作業の継続性、整理作業の分担などの評価・見直しをもとに、実務的、実践的な内容となった。

『土器』はB5版横長である。縄文時代早期、前期、中期、後期、晩期ごとに土器の実測図、拓本などが並べられている。『石器等』はB5版縦長であり、「大別」「分類」「計測」「組み合わせ例」「付録」という構成である。ここには昭和56年度のハンドブックの「表紙」と「まえがき」を示してある。この「まえがき」は大沼さんの文章である。当時パソコンなどは想像だにできない頃なので、手書き文字である。今後の仕事の展開範囲は、北海道の全域に及んでいくであろう。それにともない今後の修正、補正を必要とするという立場である。

この「ハンドブック」を参考に、25%調査で発掘される土器、石器等を、グリッドの中で土層の堆積とあわせ確かめているのが5月のことであった。現在の展示室、整理作業室で、多種多様で膨大な資料群を直接見ている職場環境と比較すると、まことに隔世の感がある。

(第2調査部長 西田 茂)

参考文献 西田茂 1986年3月「Ⅶ 登別・白老地区の概要」『登別市川上B遺跡・C地区』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告 第27集

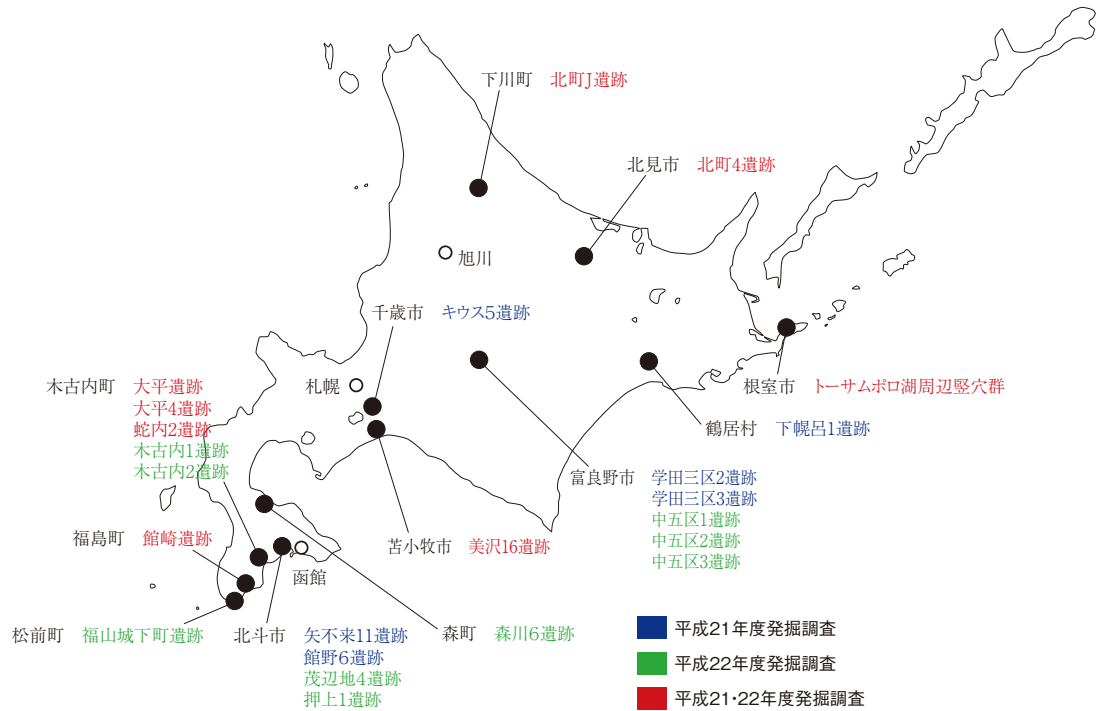


財団法人 北海道埋蔵文化財センター職員 (平成22年2月)



○平成22年度の発掘調査予定

開発事業実施機関名	事業名	所在市町村名	調査遺跡名	調査面積(m ²)	
国土交通省 北海道開発建設局	札幌開発建設部	道央圏連絡道路新千歳空港関連工事	キウス5ほか	整理作業	
		新千歳空港ILS用地造成工事	美沢16	473	
	函館開発建設部	函館江差自動車道	北斗市	館野ほか	整理作業
				茂辺地4	83
	旭川開発建設部	旭川十勝道路・富良野道路	富良野市	北町J	3,000
				中五区1	80
				中五区2	2,510
	網走開発建設部	北海道横断自動車道網走線 訓子府北見間改良工事	北見市	北上4	整理作業
				旭川紋別自動車道 遠軽町遠軽地区	白滝遺跡群
	(国土交通省 計)				10,956
(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構	北海道新幹線建設局	北海道新幹線建設事業	福島町	館崎	753
			木古内町	大平	2,910
				大平4	1,817
				木古内1	8,890
				木古内2	980
				蛇内2	850
			北斗市	押上1	4,200
(鉄道・運輸機構 計)				18,400	
北海道	渡島支庁(函館土木現業所)	町道朝日盛岡線代行事業改良工事	松前町	福山城下町	300
	渡島支庁(函館土木現業所)	森インター線交安工事	森町	森川6	2,080
	釧路支庁(釧路土木現業所)	釧路鶴居弟子屈線交安1種(統合)工事	鶴居村	下幌呂1	整理作業
	釧路支庁(釧路土木現業所)	根室半島線(B交-461)交付金工事	根室市	トーサムボロ湖周辺堅穴群	1,500
	(北海道 計)				3,860
市町村合計	釧路町	町道床丹6号線道路改良工事	釧路町	天寧1	整理作業
計				33,216	



○平成22年度の祝日開館日

4月29日(木) 昭和の日、5月3日(月) 憲法記念日、5月4日(火) みどりの日、5月5日(水) こどもの日、9月20日(日) 敬老の日、9月23日(木) 秋分の日、10月11日(日) 体育の日、11月3日(水) 文化の日

○平成22年度の臨時休館日

10月12日(火)、11月4日(木)、12月26日(日)、12月28日(火)、3月22日(火)、3月23日(水)、3月24日(木)、3月25日(金)

◆交通案内◆

- ・JR大森駅から、徒歩約20分
- ・新さっぽろバスターミナル発
 - ・JRバス(文教通西循環線)・夕鉄バス(文京台南町行)に乗り「くりの木公園前」下車、徒歩5分
 - ・JRバス・夕鉄バス(江別方面行き)に乗り「北翔大札学院大前」下車、徒歩15分

